

校内書き初め展の入賞者です

冬休みの課題でもあった校内書き初め展の4組の入賞者です。

金賞 ○○さん

銀賞 ○○さん

銅賞 ○○さん

おめでとう。

○○さん、なかなか勢いのある字だね。

今年もその勢いでがんばりましょう。

決して「×××号」などと担任に

呼ばれないようにね。

○○さん、文字の均整がとれてるね。

今年もそのバランス感覚大切にね。

○○さん、きれいな仕上がりがだね。

今年も美しーく頼むね。

「1年の復習 Review」

のとりくみ しっかりやりましょう

冬休みの課題の一つの「1年の復習 **Review**」のとりくみですが、この後も続きます。これにしっかりととりくむことが、学年通信にもあったように、1年の総復習をして、学習内容の定着をはかることとなります。2月の実力試験の範囲でもあるので、ちゃんとやりましょう。

ところで、みんなの出してくれた **Review** ノートを見せてもらいましたが、なかなかの人がいましたね。

意欲、工夫、努力が見られました。

感心その1 同じノートを買ってきて、教科別にノートをつくった人がいた。これは意欲の現れですね。すごいもんです。

感心その2 1冊のノートでも教科別に見出しを付けて、この後に続けて教科別に書き込めるようにしてあった。

ノートの使い方に工夫があったということですね。

感心その3 途中計算などていねいに書いてあった。

答えもらってないわけですから、ノートに書いてあることはすべてみんなの努力ということです。びっしりノートに書き込んである人が何人もいました。こんな人、3年生になったらすごい力を持った人になりますね。

まだまだすごい人もいますが、この後「解答編」を分けます。

この使い方が、またまた差を生むんですよね。

ただ丸付けをする人、まちがったところを再度やり直す人、まちがえた理由を書き込む人、わからなかったところの答をただ書き写す人。

やり方でいろいろと差がでてきます。君はどれかな？

では今後のとりくみ

①ノートが返ってきます。同時に「解答編」をもらいます。「解答編」をもとに、自分のとりくんだ答の確認をします。(つまり丸付けってことだね)

と同時に、「**Review**」本誌の問題らんをチェックします。これは問題番号にできなかった問題に×印、できた問題に○印をしておきます。

②確認の結果から、復習のとりくみをします。

「**Review**」本誌にはまだ記入せず、ノートにまちがえた問題をします。

それは上に書いたような例の中から、自分がいいと思うことを考えてやります。で、まちがえた問題ができたなら「**Review**」本誌の問題らんの前回×だったところの横に○をつけます。こうやってできるまで(○がつくまで)やりましょう。

ちなみに「解答編」は実力テスト後に回収しますから、それまではどのように使うか、煮て食うか、焼いて食うかは君次第。

詳しいことは以前に配ったプリントに書いてあります。

どんなことでも、**もらったものをよく読むこと、人の話をよく聞くこと**、これが基本ですよ。